

## 京都大学構内遺跡調査研究年報 2011・2012年度

第1章 2011・2012年度京都大学構内遺跡調査の概要

第2章 京都大学病院構内 A H 12 区の発掘調査

第3章 京都大学病院構内 A H 15 区の発掘調査

# 第1章 2011・2012年度京都大学構内遺跡調査の概要

上原真人 千葉 豊

## 1 調査の経過

京都大学文化財総合研究センターは、吉田キャンパスおよび附属施設の敷地内における建物の新営やそのほかの掘削工事に際し、予定地の埋蔵文化財調査を、既知の遺跡との関係や過去の調査結果により、発掘・試掘・立合にわけて実施している。2011・2012年度には、以下のように発掘調査4件、立合調査15件を実施した（括弧内は図版1および表1の地点番号）。

発掘調査	国際人材交流拠点新営（吉田南構内A N21区）	（整理中，図版1 - 378）
	メディカルイノベーションセンター新営（病院構内A H12区）	（第2章，図版1 - 379）
	自家発電設備新営（病院構内A H15区）	（第3章，図版1 - 384）
立合調査	総合高度先端医療病棟新営（病院構内A F17区）	（発掘中，図版1 - 385）
	電気配線及び配水管敷設替え（吉田南構内A Q25区）	（第1章，図版1 - 380）
	分子生物実験棟変電設備設置改善工事（病院構内A F13区）	（第1章，図版1 - 381）
	医学部附属病院立体駐車場（病院構内A I16区）	（第1章，図版1 - 382）
	総合研究棟等改修工事（本部構内A V27区）	（第1章，図版1 - 383）
	医学部汚水配管敷設替工事（医学部構内A O16区）	（第1章，図版1 - 386）
	メディカルイノベーションセンター新営付帯工事（病院構内A H12区）	（第1章，図版1 - 387）
	国際人材交流拠点新営付帯工事（吉田南構内A N21区）	（第1章，図版1 - 388）
	本部構内駐輪場整備工事（本部構内A Z29区）	（第1章，図版1 - 389）
	学生支援センター改修工事（西部構内A X21区）	（第1章，図版1 - 390）
	北部グラウンド改修その他工事（北部構内B H38区）	（第1章，図版1 - 391）
	総合研究棟改修電気設備工事（本部構内A U23区）	（第1章，図版1 - 392）
	総合研究棟改修工事（本部構内A X27区）	（第1章，図版1 - 393）
	カーゲート設置電気設備工事（本部構内A T25区）	（第1章，図版1 - 394）
	国際人材育成拠点施設新営（本部構内A T23区）	（第1章，図版1 - 395）
薬学部栽培温室等改修工事（病院構内A I15区）	（第1章，図版1 - 396）	

## 2 調査の成果

前節で掲げた調査のうち、2011・2012年度に整理を終えたものについて、その成果を略述する。なお、病院構内A H12区、同構内A H15区の発掘調査については、第2章、第3章において、その成果を詳述しているので参照されたい。

**病院構内A H12区** 病院西構内の西辺に位置し、聖護院川原町遺跡に含まれる。調査

の結果、近世の道路、水路、井戸、溝などが検出された。江戸時代に作成された古図との比較から、東西に伸びる道路は吉田村と聖護院村を画する字境界であり、水路は調査地点から北900mの出町柳付近の鴨川から取水し、吉田村の西辺を南流して聖護院村の北西隅から鴨川へ排水している人工水路の一部であることが判明した。道路の構築が17世紀前半、水路の構築が17世紀後半と考えられる。病院西構内の江戸時代の耕地開発を18世紀中頃以降とした従来の想定より1世紀以上早くから、開発行為がおこなわれていたことが明らかとなった。また、水路を埋積していた大量の遺物の検討から、水路は幕末頃、頻繁におこった洪水によって廃絶しており、これがのちにこの地一帯を京都守護職・松平容保が「練兵場」として囲うことになる契機の一つになったと想定した。

**病院構内 A H 15区** 病院西構内の東辺に位置し、聖護院川原町遺跡に含まれる。調査の結果、近世の道路、井戸、盛土遺構、流路などが検出されたが、中世以前の明確な遺構は見つからなかった。調査区の南一帯に想定されている「白河北殿」の北辺地域に関係する古代・中世の遺跡は、本調査地点までは及んでいない可能性が強まった。江戸時代の自然流路は、その脇を堤防状に補強して道路面としていた。用水路としての機能をもたせたもので、調査区周辺の耕作地としての土地利用を明らかにする手がかりを得ることができた。また、表土中より大量に出土した京都帝国大学医学部附属医院に関する「病院食器」についての詳細な資料紹介がなされ、文献記録からではたどることのできない、当時の様相の一端を明らかにした。

**京都大学構内における立合調査** 本部構内 A V 27区 (383地点) では、総合研究 8 号館北東側で固結した礫敷面、南側中央付近 (Y = 2350 ライン付近) で大きな落ち込みを確認した。前者は、近世白川道の路面にあたり、後者は幕末に設置された尾張藩邸の東を限る堀跡の可能性がある。尾張藩邸堀跡は、本部構内 A T 23区 (395地点) でも南を限る部分が確認されている。幕末期に、本部構内西半に占地した尾張藩邸の四周に巡っていた堀跡に関しては、南および西については過去の調査でも確認しているが、東および北に関しては、十分な情報を得られていない。本部構内 A T 27区 (89地点) では、南東コーナーを確認しており、今回確認した383地点を結ぶ Y = 2350 のライン付近が東側の堀の位置となる可能性がある。将来の調査での検証を期待したい。

病院西構内 A I 15区 (396地点) では、近世の遺物包含層を確認した。立合地点のある病院西構内北半は旧・京都織物会社の敷地にあたり、過去に発掘調査がなされたことはない。今後、周辺地区での開発行為については十分に留意する必要がある。